

平成30年 2 月 9 日

陳情第131号

小田原市市民ホールプロポーザル2次審査結果に対する追加情報を求める陳情書

小田原市市民ホールプロポーザル2次審査結果に対する追加情報を求める陳情書

【陳情趣旨】

小田原市市民ホールは、優先交渉権者が決まり、契約も済ませ、市民説明会が開かれようとしています。

先日の事業者選定プレゼンテーション(12月9日)で、3者(B、C、D)ある中で、環境デザイン研究所長提案のC者が選定されることのないよう、一縷の望みを掛けてアンケートを提出しましたが、案の定C者が優先交渉権者に選ばれました。

もはや、行政を相手に意見を述べる段階ではなく、議会のチェック機能に期待して陳情申し上げる次第です。

建築業界をめぐるスキャンダルは、オリンピック、東京豊洲移転、リニア新幹線談合を見るまでもなく、日常茶飯事です。事業費が二桁も小さい地方都市をいじめないでくれと言いたくなります。

新聞に投書したとして、小田原市の内情を全国紙に載せても物笑いになるだけであり、載せるとしたら、「インサイダー取引的なことが小田原市でも起きていて、建築業界はけしからん」という程度の正論しか載せることが出来ず、「小田原のことは小田原で解決しなさいよ」といわれるのが落ちです。

今回の事業者選定について疑義を述べます。

今回のスキームはコストの上限(63億)が最優先項目であり、このことを暗黙の内に知っていたC者が選定されたわけですが、それは述べ床面積が小さいことを意味し、それはそのまま使い勝手の悪さ(狭くて使いにくい)につながります。行政からは、3者の床面積は公表されず、いわば試験問題を予め知っていた受験者が合格する「出来レース」と感じます。(C者の提案は大ホールと小ホールを東西同一線上に配置しているため、B者・D者の床面積より小さいことは提案の資料を見れば一目瞭然です。)

もうひとつ設計者選定の疑義があります。

B者とC者の点数は僅差であり(B者72.65、C者73.50、差0.85)、その差がどこから来ているかを見ると、全体配置計画提案書(配点10)においてB者7.50、C者10.00、差2.50と大きな差が付いている。この項目はまちづくり関係の配点ですが、C者の「まちの回遊の導火線(東西軸)」説明資料は、コンサルタントの提案のような、63億のホール建設とは直接関係のない周辺のまちづくりを絵に描いたものであり、実施主体は小田原市になるので、これに評点を与えることは出来ない。まちづくりの観点から言えば、東西の動線さえ確保されていれば、あとは自然に町が出来上がっていく性格のものであります。

終わりに、陳情者は、三の丸にホールを建てるべきではないと主張する人達がいることを知っています。民主主義は、ごく一部の両端の考えを持つ人達(市民)の主張を、大多数の市民(中間層)が、どちらの言い分がもっともであるかを直感的・総合的に判断して、両端の主張を背にした候補者を、選挙で決定するものです。三の丸にホールを建てることへのコンセンサスは30年間続いています。最後の最後で、使い勝手の悪いホールが出来上がるのを見てはおれず、陳情に至った次第です。

【陳情項目】

1. 3者の延べ床面積を行政に公表させる。
2. C者の延べ床面積が小さいことが明らかになったら、安かろう悪かろう(使い勝手が悪い)

であることが明らかになったわけであるから、審査の見直しを求める。

平成30年2月9日
小田原市議会議長
加藤 仁司 様

提出者

小田原市久野853-4
磯部 波男 ⑩